

地域医療連携センター ニュースレターvo.6

〇〇ごあいさつ〇〇

今年度新型コロナウイルス感染症も5類感染症の位置づけとなり、対面での活動を行うことができました。例年行っている講演会に加え、地域住民を対象とした初めての勉強会の開催など地域医療連携センターの活動についてニュースレターにて報告させていただきます。今後とも地域医療連携センターの活動にご支援賜りますようお願いいたします。

相談窓口のポスターをリニューアルしました！

患者様・ご家族にスムーズにご利用いただけるよう、院内の相談部門と協同し、新たにポスターを作成しました。このアイコンが目印です。患者様をご案内の際は、ぜひご利用ください。



〇〇応接対応〇〇

今年度は感染症5類移行に伴い、関係機関の皆様と直接交流する機会も多くなりました。当院もコロナ禍で中止していた病院訪問を再開し、連携を深める機会となりました。

応接

医療機関(訪問診療、クリニック含む)：37機関
訪問看護ステーション：52事業所
施設(介護施設、障がい者施設等)：27カ所

病院訪問

十善病院、御幸病院
朝日野総合病院、熊本脳神経外科病院

〇〇地域医療連携センターの相談対応状況〇〇

地域医療連携センターへの相談依頼は年々増加傾向にあり、最近では、身寄りがないことや、独居で身近に家族等から支援が得られにくいことで生じる多様な問題に関する相談が院内・外ともに増加しています。今年度は就労支援に関する広報周知や相談窓口の広報に取り組みました。

【令和5年度依頼件数(※2月時点)】

入院患者に関する相談支援件数：1822、外来患者に関する相談支援件数：832、
院内・外、患者等からの問い合わせ・相談件数：4221、入院前支援件数：950

業務改善

令和5年11月14日に、看護部の業務改善報告会が行われ、当部署の教育委員が取り組んだ業務改善について報告をいたしました。病棟と違い、多職種でお互いの得意分野を活かしていることや経験の違いを席替え等で補い合うような取り組みが非常に興味深いとの評価をいただきました。



困難事例

今年度、地域医療連携センターでは部署カンファレンスで取り上げる事例の背景を分析し、支援が難航する主な背景を分析、集計しました。

「院内・外との連携」「家族関係」「合意形成」といったキーワードが上位を占めました。

退院調整看護師とMSWのカンファレンスの他に、がん相談支援センターとの合同カンファレンスを開催し、上記背景のあるケースにおいてはより密な共有と検討を行うよう努めています。

〇〇講演会〇〇

今年度も多くの方に参加いただきました。
来年度も皆様のスキルアップ、連携の機会となるよう企画して参ります。

成人虐待対応チームとの合同研修会

令和5年9月29日に院内・地域関係機関を対象として開催しました。
社会福祉士会から窪田寛史先生を講師に招き、高齢者虐待を法的、行政的視点から講義
いただきました。参加者は会場39名、web138名と多くの医療、福祉従事者の方々が参加
した研修会となりました。

脳卒中・心臓病等総合支援センターとの合同勉強会

「循環器病（心臓病・脳卒中）を予防し、たとえ発症しても安心して暮らせるように」
をテーマに令和5年10月4日に地域住民の方を対象として開催しました。
参加者は40代～90代のべ16名で、ほぼ全員の方が循環器病について理解できた、役に立った
と回答頂きました。

脳卒中・心臓病等総合支援センターとの合同講演会

令和6年1月19日に「地域で支える熊本の心臓リハビリテーション～急性期病院から
地域へのバトンタッチ～」をテーマに院内・地域関係機関を対象として開催しました。
参加者は会場67名、WEB148名、職種も多職種が参加した講演会となりました。



〇〇治療と仕事の両立支援〇〇

当センターでは、治療と仕事の両立に関する相談
支援をおこなっています。今年度は相談窓口の広報
周知活動の一環として、各病棟や外来にポスターの
掲示やカードの配置をしました。
ハローワークや事業主と連携して、円滑な職場復帰
や就業継続ができるよう、支援しています。

「患者様、ご家族よりご相談がありましたら、
診察室卓上のカードをご活用ください。」
地域医療連携センター センター長武笠教授



〇〇今年度の新メンバー紹介〇〇



今年度新しく看護師2名、MSW1名、事務員1名が
加わりました♪

(左から事務員：橋本さん、看護師：島村さん、
MSW：浦本さん、看護師：中田さん)